

曇り空も「空」ですが、やはり青い空が見たいと思います。
 秋に広がる澄みわたる空を風が流れていくと、その水色のキャンパスに
 淡くやわらかな色が、すーっとひと筆のせられたみたいです。
 「この風はどこからやってきたのだろう?」……あの森から、
 コスモス畑から、懐しの海辺から…、場所だけでなく、あの日
 その時、いつの日か、それぞれの時間からも……
 秋の空に感じる様々な光のドラマを、今年はなかなか見る
 ことができないでいます。

曇り空が続く秋を眺め、心の中に青空を想うと、ある瞬間に
 光が射し込んで「にじ」が生まれてきたような気がしました。
 子どもたちが大好きな「にじ」です。
 水彩の筆を持つと、にじを描く子がたくさんいます。自由画帳
 に楽しい絵を描いて、仕上げににじを加えるのをよく目にしま
 いの一番に描き出す子もいます。
 影と光の間に生まれる虹は、やはり子どもたちにとって
 「ゆめ」や「願い」や「憧れ」…など、何かうれしい世界への
 掛け橋なのかもしれません!

とてもとても忙しい今年の9月でした。知らない土地を開墾
 しているような感じの月でした。
 まだまだ青空も、風が届けてくれる色彩の語り合いも、目に
 見える空にはなかなか現れないかもしれませんが、子どもたちの
 ように大好きな「にじ」を内なる空に登場させたいと思います。
 目の前の風景を静かに消すときに、いつでもその背後にある
 本質界の実態の姿が心の舞台に浮かびあがってくるのかもしれ
 ません。秋の質的風景がです。

2016年度の折り返しの時に、大地と大空の間に立つ自分たちを、
 子どもたちをあらためて感じ、天空に自らの意志で「にじ」を感じ
 ながら進んでいきたいと思っています。
 空の風景に様々な心の内のヴィジョンを見出すように、わくわく
 する絵を描きたいものです。

10月から3月にかけての工事期間中、この時期ならではのたのしさを
つむいでいきたいと思います。

これから未知なることも多いかもしれませんが、世界は実際いつでも
未知なるひとつひとつのはじめでの時間であり、展開する景色なので
しょう！

今からやってくるそれぞれを、皆さんと確かめ合い思いめぐらし
合いながら、その大切ないのちある時や風景を作っていくよう
にと願っています。

今年度の後半もどうぞよろしくお願いします。
よろこびいっぱい秋を、共に過しましょう！

園長 升光 泰雄

③ 川崎洋さんの「にじ」の詩を紹介します

はなしあおうじゃないか と ゆう声 がした
うすいみどりいろのこえだった すると
もうひとつの空のほうから
はなしあおうじゃないか と ゆう声 がした
ぽっかりあかいこえだった
むらさきやら たまごいろやら
おりおり わらいさざめいたりしながら
あさぎりに ぬれている 新緑地の ことなんぞを
風が吹くたんび 話題をかえたりしながら
それはそれは ほんとうにたのしそうに
空のこちらから
むこういっぱいにかけて
はなしあっていたことだった

